

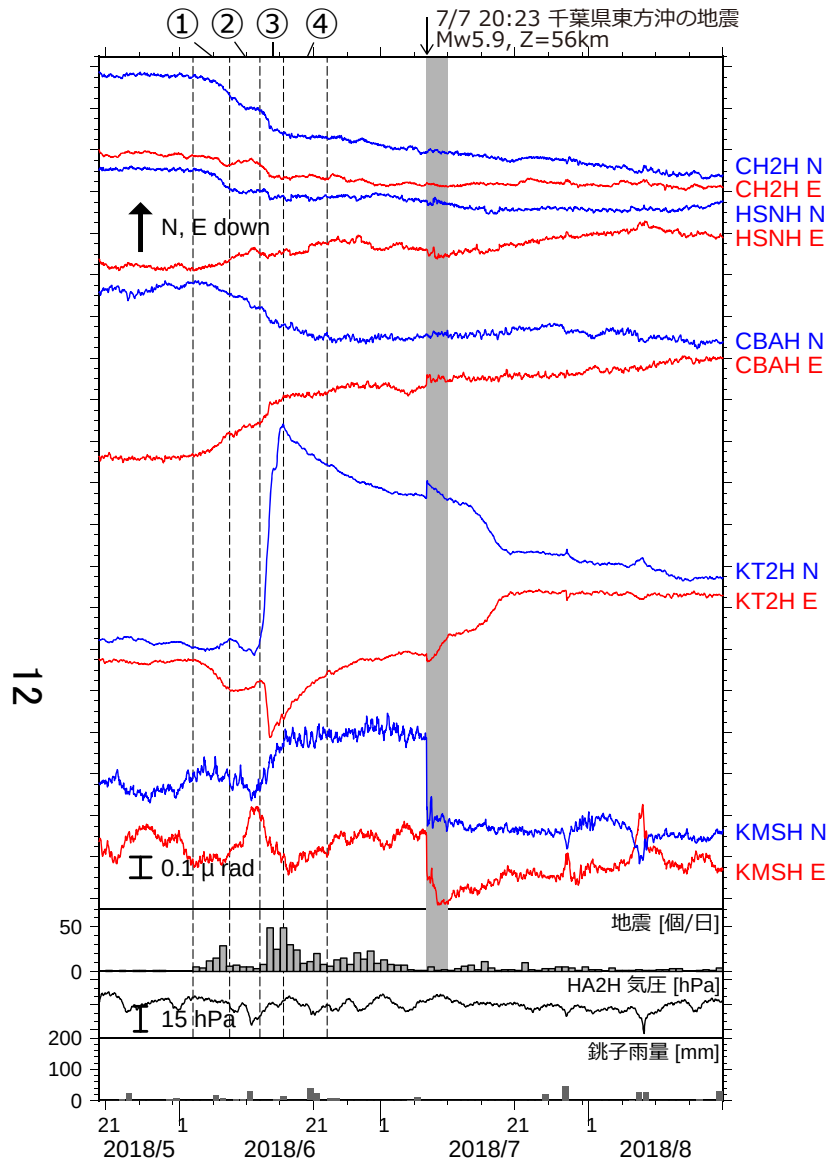


図1 2018年5月20日～8月20日の傾斜時系列。上方向への変化が北・東下りの傾斜変動を表す。BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答成分を除去し、地震時のステップ(ただし、7月7日千葉県東方沖の地震をのぞく)および直線トレンドを補正した後の記録を示した。期間①～④の傾斜変化ベクトルを図2に示す。房総半島沖の地震活動度(Z<30km, 自動処理を含む)・Hi-net 波崎2観測点(HA2H)における気圧・気象庁銚子観測点の雨量をあわせて示す。7月7日の地震による影響と見られる変動を灰色で示す。

- ・ 房総半島沖の群発地震と同期したスロースリップイベントを検出 (Mw6.5)
- ・ 2013年12月～2014年1月(Mw6.3)以来約4年5ヶ月ぶり

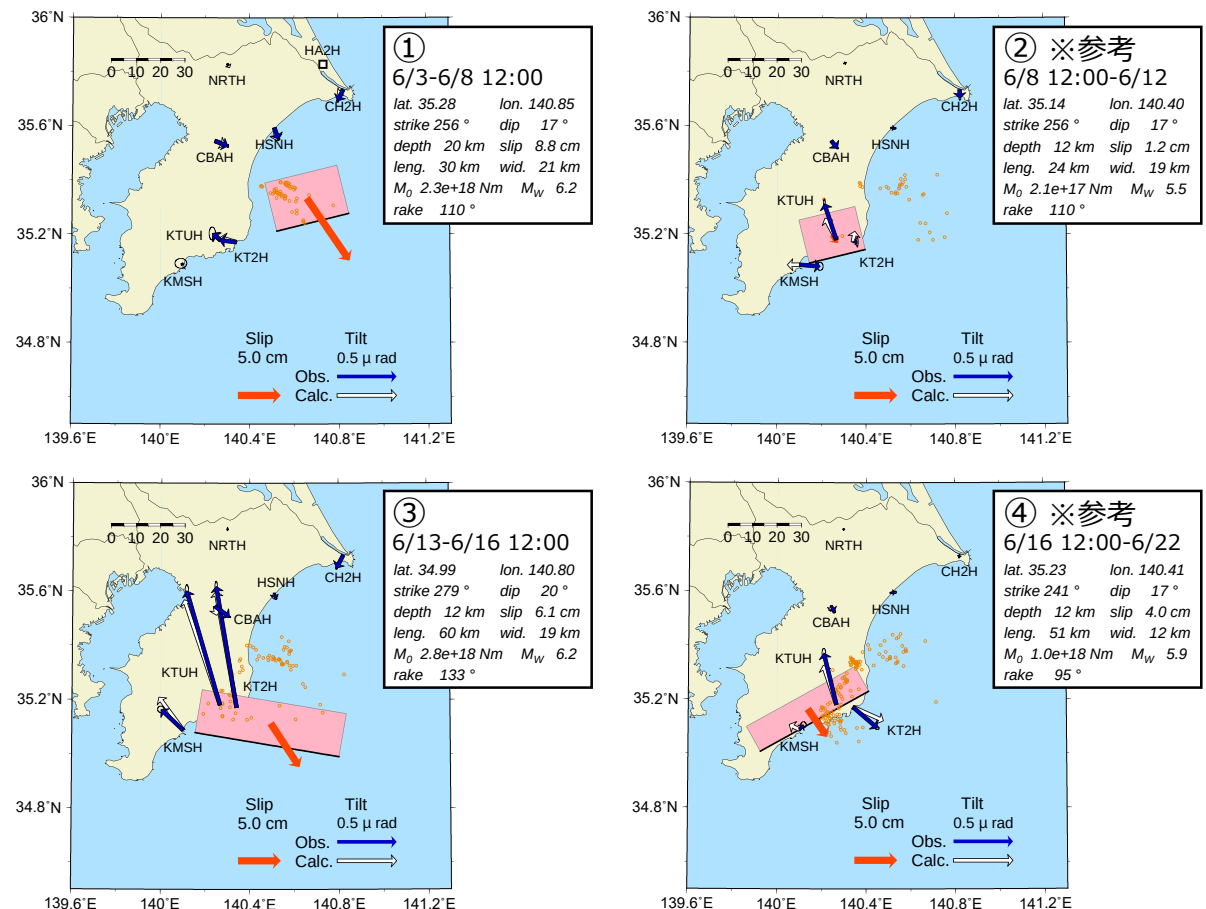


図2 期間①～④に観測された傾斜変化ベクトル(青矢印)、推定されたスロースリップイベントの断層モデル(赤矩形・矢印)、モデルから計算される傾斜変化ベクトル(白抜き矢印)を示す。Hi-netによる震央分布もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。図に傾斜変化ベクトルを示した観測点を断層モデル推定に使用した。期間②と④については、推定精度が低い参考として図示した。

謝辞 気象庁のWEB ページで公開されている気象データを使用させて頂きました。記して感謝いたします。